



『執着系怪異の甘々触手攻めで堕とされる』

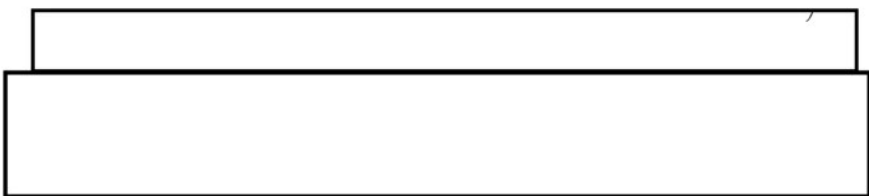
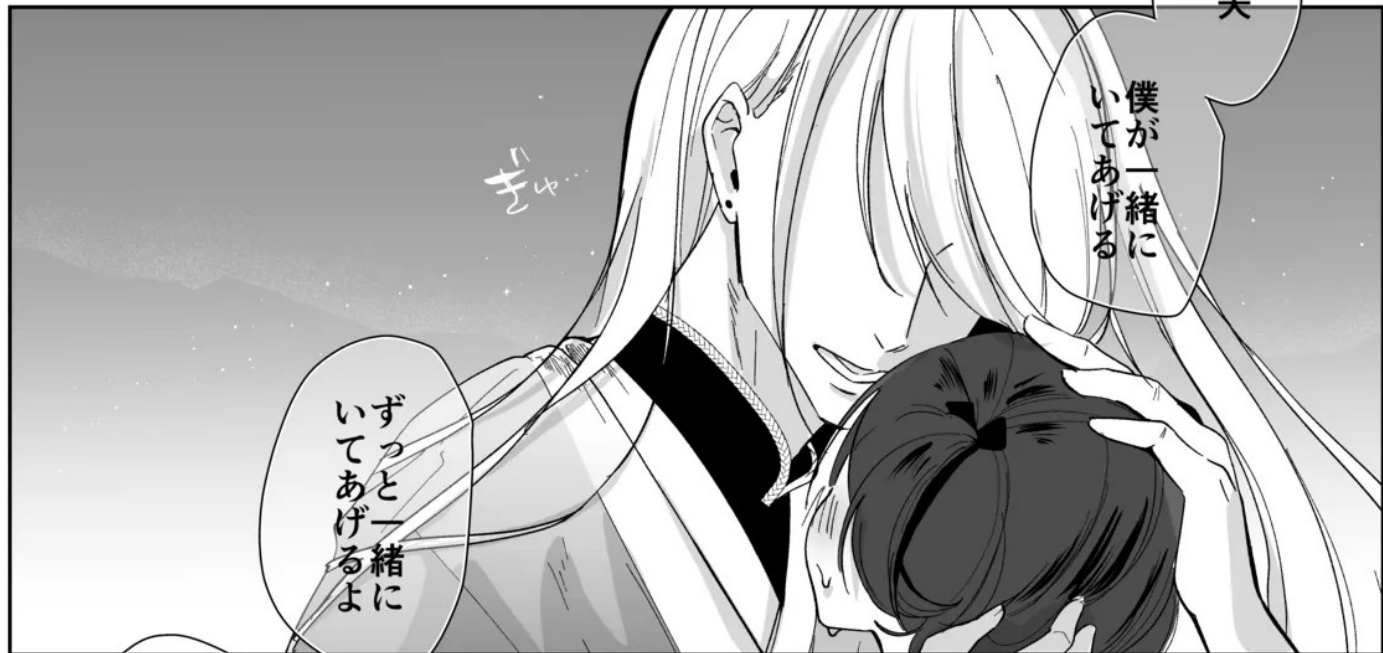
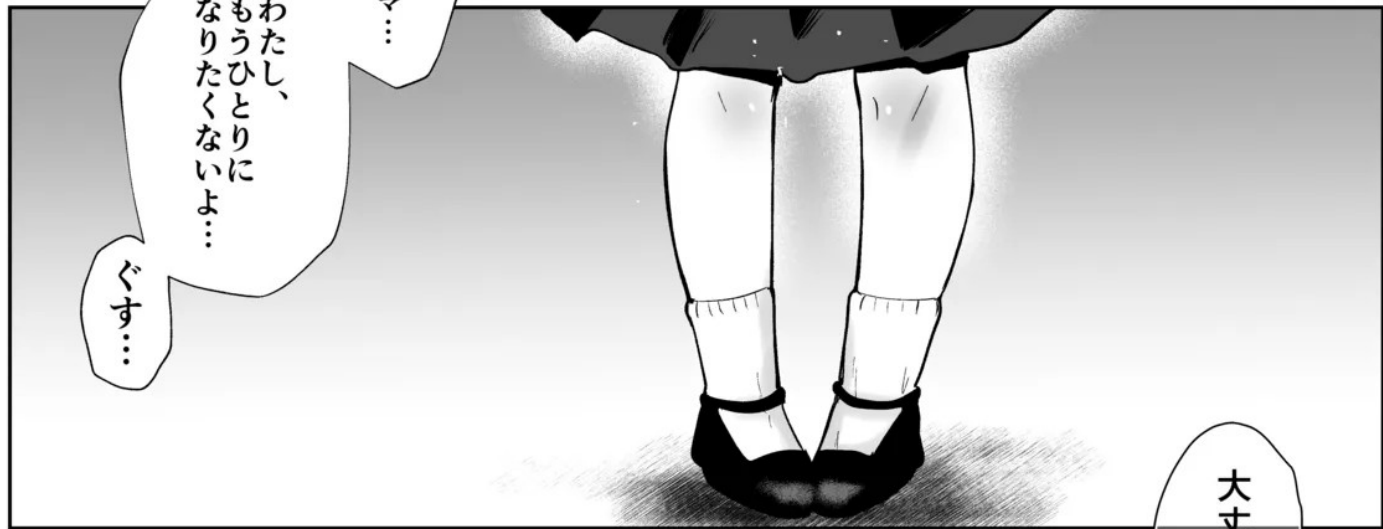
怪異

研究所

◆ ◆ ◆
月見里

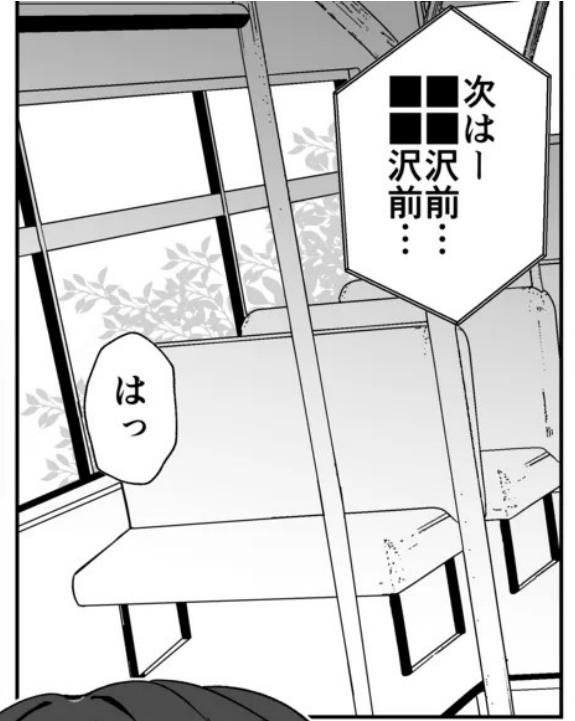
前編

Presented by
おむすびころりん



ゆきちゃん









その主たる機関が
この国立怪異研究所

わたしの
職場でもある



そして数年ぶりに
地元へ帰ってきたのは…

かつて超常現象と
言われ、排斥
されていた『怪異』

近年の研究により
保管や対処方法が
明確化された

その超人的な力を
脅威とみなし

共存する意向を
政府は示した

また、その力が
国民へ影響が
及ばないように

政府は
『自国の文化』として
保管、保存を指示した

もしかして
雪乃ちゃん、
あそこへ行くの？

はい…

少し前からあの付近の
住人たちは怪我や病気で
災難続き…

お供えもお祭りも
お祈りも効かない
もんだからね

どうやら
あの敷地内に
足を踏み入ることすら
できないって話だよ

怪異のせいだ
なんて…

昔からあそこには
子供達の守神が
いたのにな…

力が弱く
なっちゃっ
たのかねえ

私には
心当たりがある

きっと、
きっと彼に…

彼に何か
あつたのかも
しれない…

…入るよ







えっ、ちよ、
何この
成長速度!?

まず
もももも
もももも



まず
長いにつ
所長に連
絡したの
に……ッ
拘束され



低級怪異の
はずなのに…

ひゃん!?



やめなさい!
な、な、な!

しやん





このままでは
シロを助けるどころか
自分まで…

なんとかして
逃げないと…

…?



この触手
傷つけるような
攻撃はしてこない…?

しかも自意識が
あるみたいに動いて…

まるで
焦らしている
みたいだ…



何だか
息が上がって…

もしかして
このさっきの液体…

媚薬…?



はるんっ♡



悪趣味な…!

まるで淫魔みたいに…私を責めるのを楽しんでるの…?!



何で、助けを呼びたいのに…
こんな声
ばっかり…っ





この粘液、
更に熱く...

服が
溶けて...!?

はっ
はっ

やめ、
やめ...っ

にゅるにゅる
にゅるにゅる

お願い、
誰か気づいて...



ぬと
ぬと

誰か...

誰か...

にゅる
にゅる



にゅるにゅる
にゅるにゅる

にゅる
にゅる





か
3
0



ちゅこちゅこ
だめッ

ほ
ず
は

くる、
き
ち
や
う……!



織毛が
ぞりぞり
まどわりついて
腰抜けちや……ッ



吸いながら
ピストンだめッ





ぬっぬっ

最悪…
ほんとに…
なんでこんな…

は、
は、



くはくは



だめ、だめ、
そこだけは…ッ

や、やめ…

くはくは

は、
は、

は、

くはくは

くはくは



しろ、
お…

これから、
前戯までって



会いたかったよ、
ユキちゃん



し、ろ……



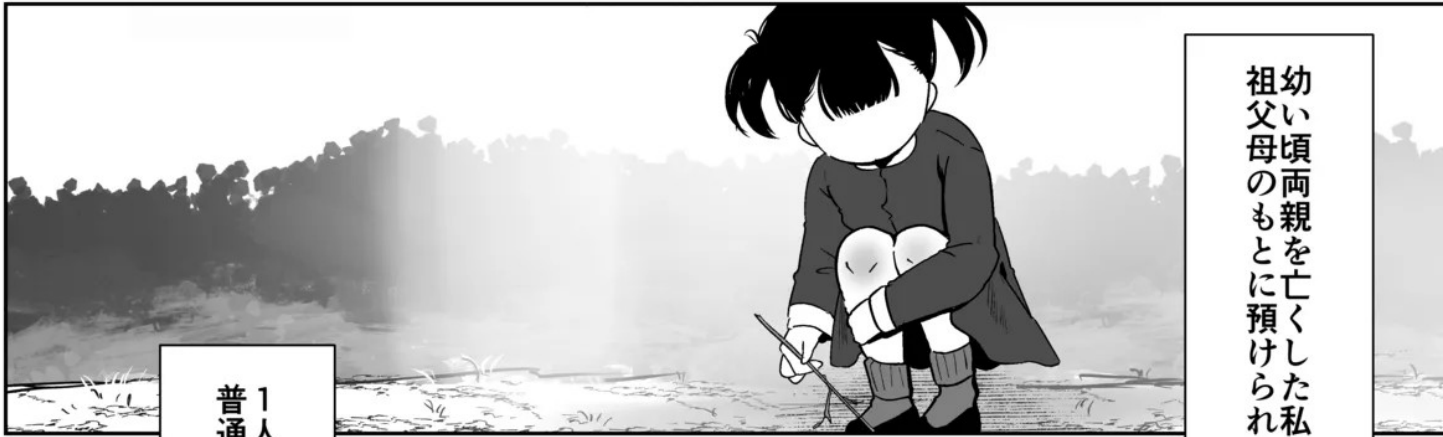


あの子は
外から
来た子だから…

おかーさんも
おとーさんも
いないんだって

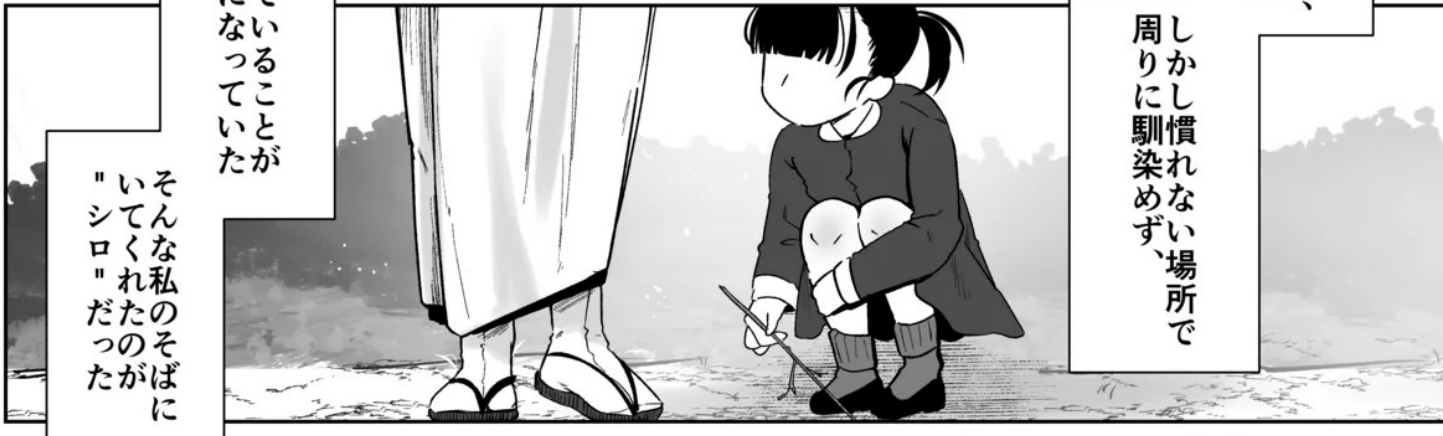
変なの

あっち
いこ!



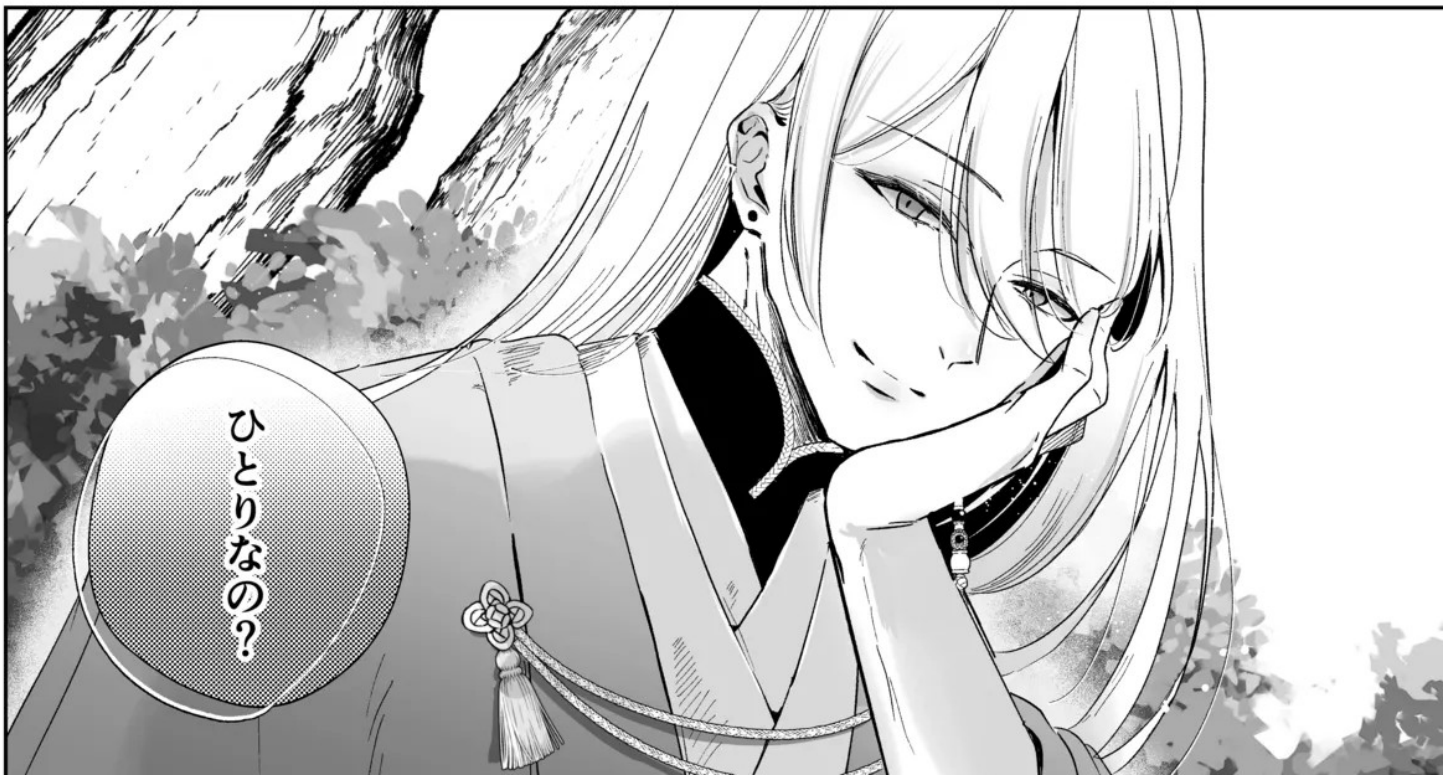
幼い頃両親を亡くした私は、
祖父母のもとに預けられた

1人でいることが
普通になっていた



しかし慣れない場所で
周りに馴染めず

そんな私のそばに
"シロ"だったのが
いてくれた



ひとりなの?!



お名前、
ないの？
かみ
おまかせ！

あなたは
シロね！

白髪の毛
いから！

：
ありがとう

シロ
さん



それからはずっと
シロと一緒にだった

両親も友人も
いない私にとって

シロは
私の友人のような
家族のような
特別な存在になっていた







…もう、
子供扱い
やめてよ



ここ
こないの？

ホッホッ



シロとの
特別な関係は
私が高校生に
なるまで続いた

シロは変わらない
はずなのに

なぜか意識して
しまう自分がいた



いつかシロの
もとは行かなく
なってしまうた

それに、
人間の私では
到底敵わないような
計り知れない
力を持つている彼に
一種の畏れのような
気持ちもあり



あくまでも
シロは人間ではない

このままだと
よくない感情が
湧いてきそうで…

高校卒業後は
実家から出て大学進学、
今の研究所に入職した

その後祖父母も亡くなり、
あの場所に行くことは
無くなってしまった

シロのことは
なんとなく
後ろめたくて…

ずっと
忘れられ
ないでいた

そんな折、
あの場所の付近で
原因不明の事故が
相次いでいると聞いた

怪異起因と予想され、
研究所管轄となった

情報を聞いた途端
すぐにシロの姿が
思い浮かんだ

もしかしたら、
シロにかかると
あつたのかかも
しれないと…





あ、起きた？
ゆきちゃん

し、しろ…
私…
ここは…



無理しないで
昨日の粘液が
濃かったみたい

頭が
モヤモヤする
手足も
痺れて…

もう一晩も眠ったのには
やっぱり人間の体には
少し強すぎたみたいだね

あんな、
あんなこと
されて…

粘液が
熱く…
溶けて…？

なっ、なんで
あんなこと……!



こらこら、
無理しないで



む、村のみんなが
大変な目に
遭ってるって
聞いて……

シロに何か
あったと思って……

…僕?
僕はなんとも
ないよ
ほら、元気

え……?
じゃあ何で……

この辺で不幸なことが
あつたらゆきちゃんか
来てくれるかなと
思ってたんだ

ああ、それは
ゆきちゃんに
会えると
思ったからだよ

本当に帰って
来てくれたね

僕、ずーっと
寂しかったんだよ





そっ、
そんな…っ
そんな理由で
村の人たちを…！

約束破ったのは
ゆきちゃん
でしょう？



それは…

そうだ、
裏切ったのは私だ



結婚しようって
約束したのに

ずっと一緒に
いるって
言ったのに

突然いなく
なっちゃったのは
だーれ？



ひとりぼっちの
自分が

勝手に抛り所を
見つけて

勝手に
手放したんだ



…ごめんなさい、
私のせいで

シロの、
言う通りに
するから…

もう、
村のみんなに
悪さしないって、
約束して

…え？

シロとの約束、
守るから…

私とも
約束して



…何を
言ってるの？

僕にとっては
村の人なんて
どうでもいいんだ

ゆきちゃんさえ
いてくれたらいい

…でも真面目な
ゆきちゃんだから

それを言い訳に
していいよ

村の人たちに
何もしない代わりに
僕と夫婦になること

だからずっと
一緒にいようね
ゆきちゃん

…ッ



ゆきちゃん
は肌が白
いから
似合う
ね

それに、
とつても
綺麗な
なった

人の6年
ってこんな
に変わる
んだ

すごい
なあ



ふふ、
前もそんな
こと言
われた
気がする

…僕
たちは
夫婦の
契りを
交わ
すんだ

この
日を
ずっと
待
って
た



…もう、
子供
じゃ
ない
から…



大丈夫、緊張しないで

身を任せてくれたらいいから

ふふ、お香のおかげかな

少し汗ばんでる

ゆきの為に調合してみたんだ
効果があつたよ



ほら、触るだけで気持ちいいでしょ？

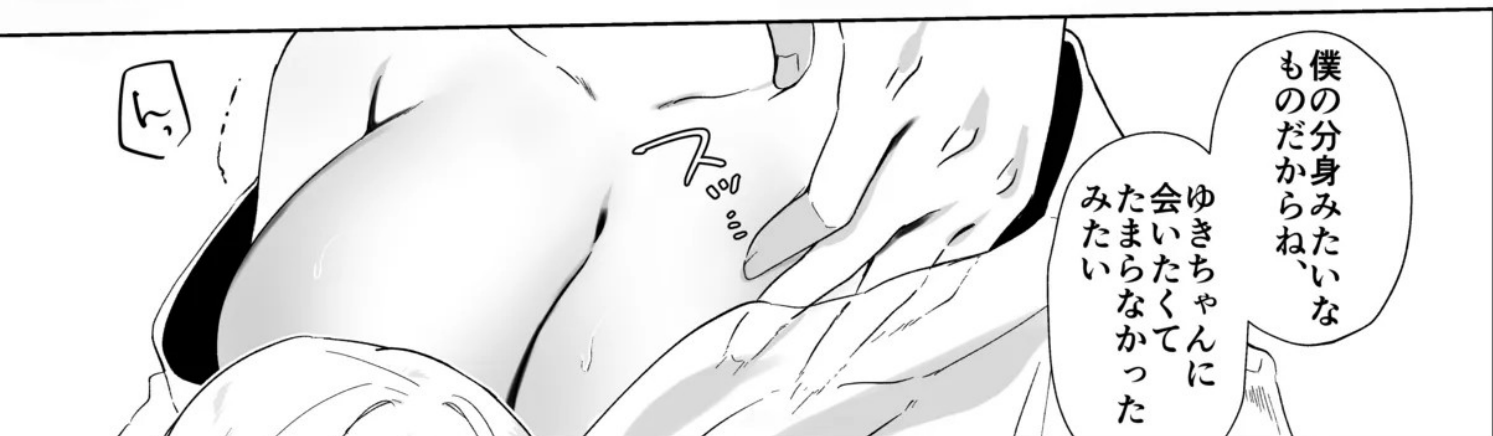
…ッ



このお香…媚薬ってことなの…？

人間で言うところかな

感覚に集中できるように





シロの冷たい指が触れて…

それに長い髪も…

こそばゆくて体が跳ねちゃう…っ

ふっふっ

んん…っ

かわいい声…

我慢しないで、全部聞かせてほしいな

んんん



乳輪からふっくりして…

触ってって言ってるみたい

シロの指が、ちくびさわり…

昨日のアレとはちがう、優しい感覚

はあ

吐息漏れるの嫌なのに

これ、きもち…

はあ、はあ、はあ

んんん



んッ
あッ

わ、すごい
もうこんな
に蕩けて…

太ももまで
びっしょりだよ

そ、それは、
媚薬…がっ…

んっ…んっ…

んっ

んっ

ふふ、
そうだね

ゆきちゃんは
効きやすい
のかな



息が上がって…
体が熱く…

シロの冷たい指が
足の付け根を
撫でるのが
ぬるぬるして
こそばゆく…

はあ



勿体無い…

んっ



ひくひくして
僕を誘ってる

んっ
んっ
んっ

あッ



んッ
あッ

んっ



全部舐めて
あげなきや

甘くて
とろとろしたのが
どんだん
溢れてくる

中も
うねって…

僕の舌が
欲しい欲しいって
おねだりしてるよ



それに…
シロの息が
当たってっ
くすぐったくて…ッ



シロが、
舐めてる…っ！

そな、とこ
舐めるの…

やっ…

舌がにゅくにゅくって
出たり入ったりして…ッ



ほっ、ほっ

十分だと思っけど、
ゆきがもつと
気持ちよく
なれるように
しようか



ああ、
ごめんね

こっちもたくさん
いじってあげなきゃ

ほっ、

んん…ッ!



少し冷たいけど
だんだん温かくな
ってくるからね



…ッひ!

は、
は、

は、
は、
は、

は、
は、

温かいって
言うより、
熱くなって…!



は…ッ
はあ…!

なに、
これえっ…!

触手たちの
粘液を濃縮して
精製した媚薬だよ
さらに感度が
上がって
もつと気持ちよく
なれるはず

は、
は、

たくさん
あげるね



ふふ、すごい
陰核がこんな
にふっくら
充血して...

あつ、
やあ...ツ!

ゆきちゃんの肌
こんなに白いのに...
こだけ桃色で
いやらしく
光ってる

可愛いなあ



昨日あんなに
いじられた
とこ...!

敏感になってるのに
また触られて
ぐずぐずに
なっちゃう...っ

にち♡にち♡
にち♡にち♡

あつ、
やあ...ツ!

あつ、
やあ...ツ!

あつ、
やあ...ツ!



媚薬、
気に入って
くれたかな?

先端にもいっぱい
塗ってあげるね

あつ、
やあ...ツ!

あつ、
やあ...ツ!

あつ、
やあ...ツ!

あつ、
やあ...ツ!



楽しんで、逃げないでね



ふふ、腰浮いてる

いっぱいあげる

ゆきちゃんここが大好きなんだね



あ、や……ッ
そこ……
ばっかり……ッ

あたま、おつかしくな



気持ちいいことだけ集中してて



あ、

ちゅっ

あ、



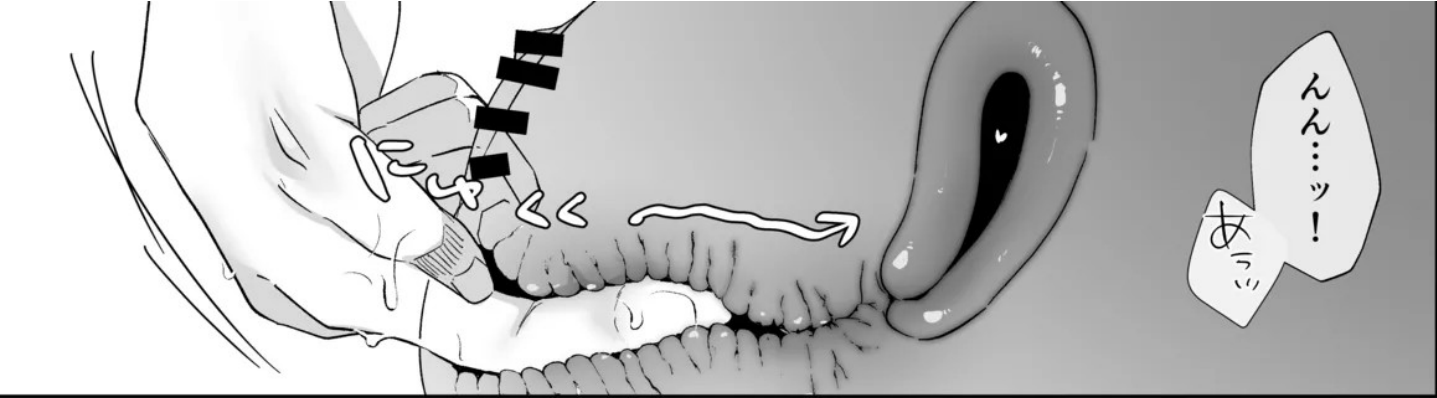
あ、ちゅっ

あ、

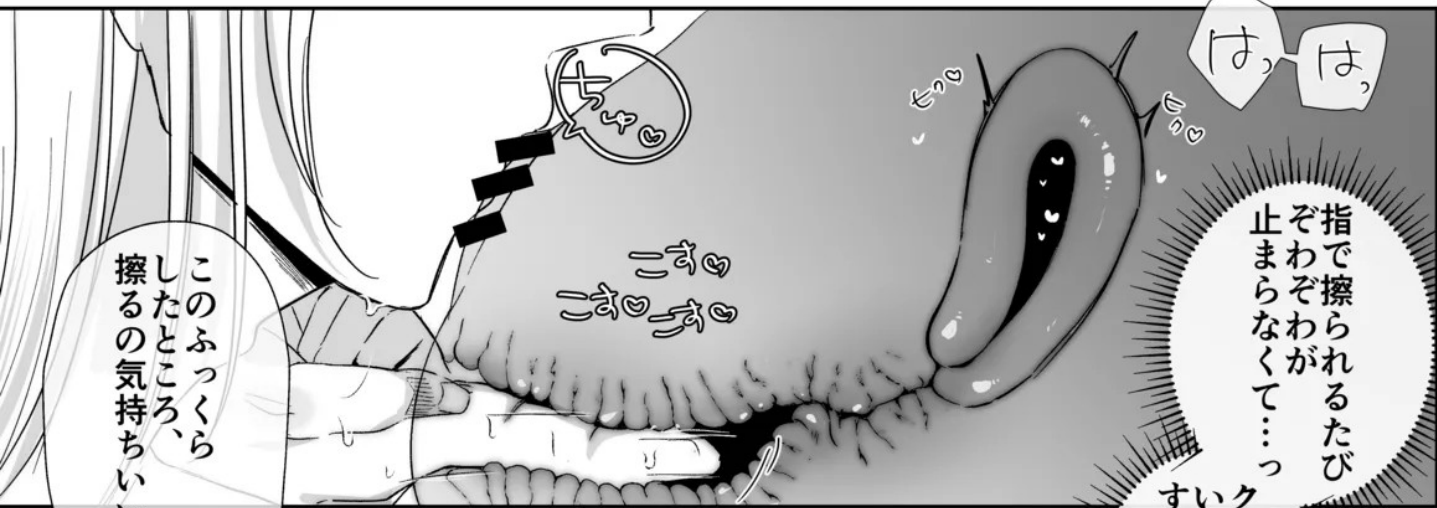


あ、ちゅっ
あ、ちゅっ
あ、ちゅっ

あ、ちゅっ



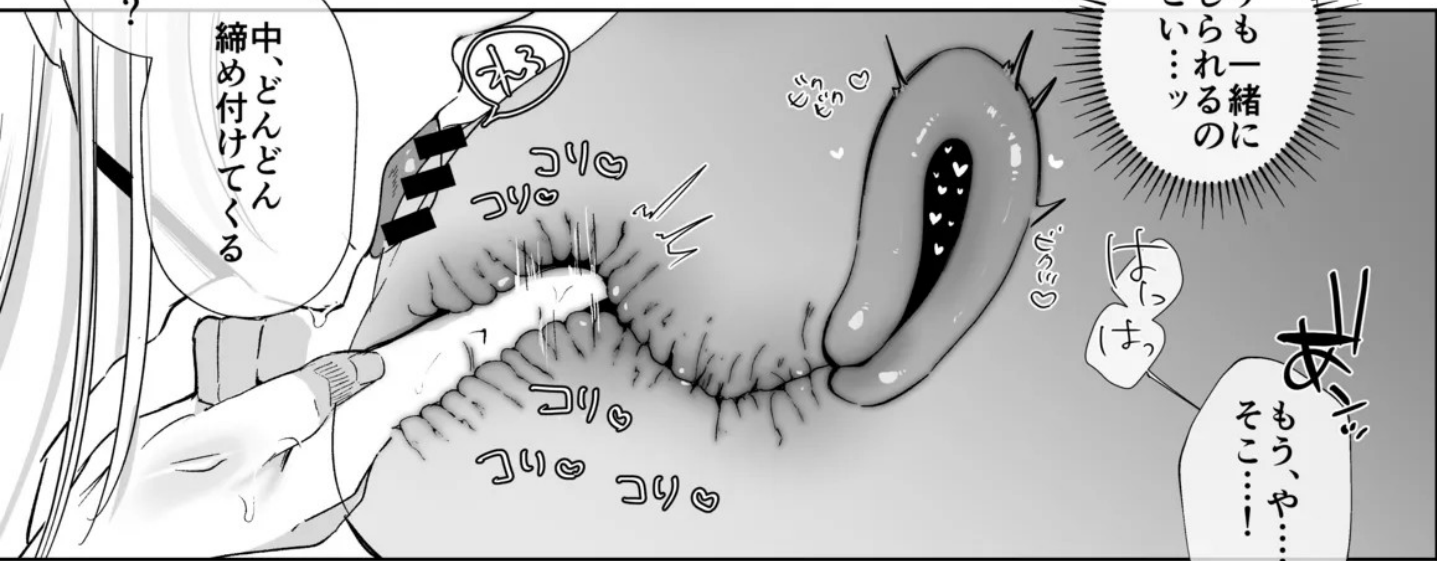
んん...ッ!
あッ



は、は、

指で擦られるたび
ぞわぞわが
止まらなくて...っ

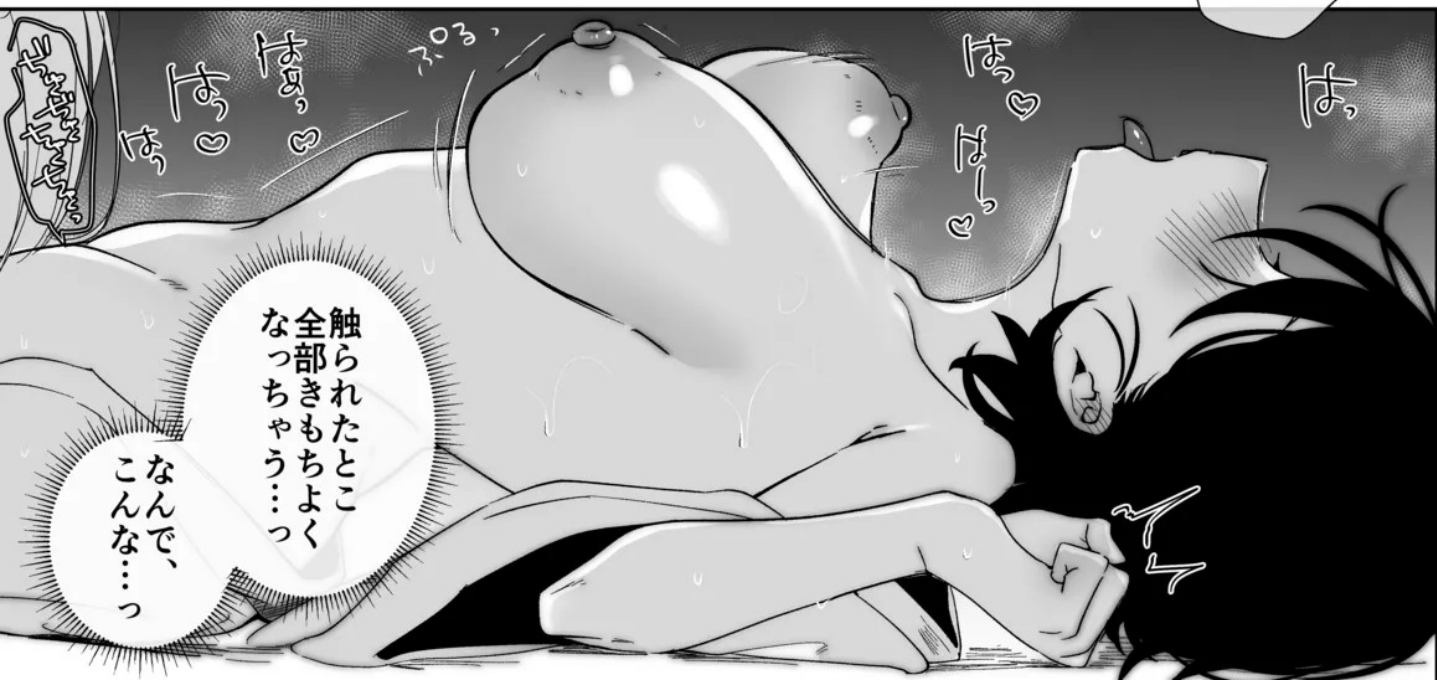
このふっくら
したところ、
擦るの気持ちいい?



あッ
もう、や...!
そこ...!

クリも一緒に
すごい...ッ

中、どんどん
締め付けてくる



は、は、
は、

は、は、
は、

は、

触られたとこ
全部きもちよく
なっちゃう...っ

なんで、
こんな...っ



くる...
くる...
くる...
おなかの下
熱くなつて...



もっと
擦ってあげる

あ、やあ...
だめ...ッ!



あたま
ふふわ
しちや...!

LOLO
LOLO
GUILTY

カ
カ
カ

カ
カ
カ



ゆきちちゃんの中、
ぎゅーって
締め付けて
僕の指離さないよ

抜くね？



いっぱい
溢れてくる…

中もふっくらして
うねって…

もう準備、
できたって
ことでいいよね？

んんッ



僕ももう…
我慢できないんだ

…っ！

フーッフーッ



し、しろ…!!

ほ、ほんとに…
するの…?!

わたしは
人間で…
しろと違うん
だよ…?

なんで今更
そんなこと
気にするの?

僕に会いに
帰ってきて
くれたんでしょ?



こんなの
だめ…
だめなのに…

しろと、
けつこんする…?

でも約束
破ったのは
わたしで…

村の人たちに
助けたくで…?

めい



だめだ
わかんない
わかんない

めい

思考が全部
この感覚に
支配される…っ



あ...あ...あ...

ズ
ズ

...っはあ

ふふ、
全部入った



ここまで、
僕のを全部
飲み込んでる

やっとひとつに
なれたね...
ゆきちゃん

すごい、
ゆきちゃんのナカ
熱くて溶けそう



は
は

中で、
びくって...

いま、シロのが、
ほんとにわたしの
なかに...

息が浅くなって...
吐息が漏れる...

はー
はま



口付けするたびに
きゅんって、
中締まるね…

かわいい

はま
はい

少し動いても
大丈夫かな



っは…!

奥っ
奥知らない
ところ…ッ

ゆさぶられて…

おなかびびくッ

なに、これ…ッ

わかんない…!



気持ちよくて
びびったり
しちゃった?

そんな表情
見たこと
なかった、

はっ

びびる

はっ
はっ

ふふ、
ゆきの知らないこと
全部見つけていこうね

僕が全部
見つけてあげる

あーっ
あーっ
あーっ

あーっ
あーっ
あーっ

ゆきの
かわいところも
弱いところも全部

わかる？
奥さんずん
ずん

ゆきの中が
うねって
きゆうきゆう
締め付けてくる

僕のこと、
もっと欲しいって
してくるんだよ

あーっ
あーっ
あーっ

あーっ
そこ……ッ
やあッ

あーっ
やあ……ッ

あーっ
あーっ
あーっ





っへ…

むっ

あ、こら…

ゆきがあまりにも
かわいだから
この子達も我慢
できなかつたみたい



この子達にも
相手させてあげて

あ、やっ
見ないで…っ♡

ずーっと
気持ちいいね

中もずっと
痙攣してるみたい…

あ♡
あ♡

体びくびくするの
とまんない…っ♡

また…っ
クリと乳首
擦られて…っ♡

粘液でまた感度が
上がってきたかな

あ♡
あ♡



やっ、奥までおしつぶされ...
絶対、情けない顔してる...

あゝ
はぁ



ごめんね、大切にしたいのにかわいなさすぎる...

いみじい...



でも愛液もこんなに溢れてきて...

音もすごよ

ハズッ
ハズッ
ハズッ

触られてるとこ、
ぜんぶ…
ぜんぶ気持ちよくて

あたま
真っ白になるっ

なにも
考えられなくて…
声も
我慢できない…っ

ゆきちゃんの
そのとろけた表情
かわいい…

ずっとずっと
見てたいけど、

もう…僕も
我慢できないや

ゆきの奥に
僕の印をいっぱい
注ぎ込んであげる…っ

ズリユツ
ズリユツ
ズリユツ

ズリユツ
ズリユツ

は、
は、

は、



ゆき、ゆき...っ

聞いたことない
切羽詰まった声

シロのこんな声、
聞いたことないのに

あの頃と同じ、

でもこの匂いは、
シロの匂いだ

安心する
匂い…



あとがき


おむすびころり、おむころです！
この度はお手に取っていただきありがとうございます！

初めての女性向けで、とっっっっつても悩みながら描いたので
まずは前編だけでも本の形にできてよかったです！

もともと40ページくらいの予定だったんですが、
知らないうちに前後編になっていました…
漫画…難しすぎる…

ちなみに後編は
6月のコミティア合わせで作成予定です！

頑張りまーす！

おむすび
緒結ころり 



▲SNS・既刊情報等各種リンク

怪異研究所の月見里さん

発行：おむすびころりん／緒結ころり

発行日：2024.12.30

印刷：  SUN GROUP
http://www.sungroup.co.jp/

表紙デザイン：たにやまや様(@taniyamaya)

✉ aburitarako.omsb@gmail.com

※ダウンロード販売時、加筆修正する場合があります。
※この本の無断複製、転写、転載を禁じます。
ご感想など、一部ページのSNS掲載は大歓迎です！
※転売はご遠慮ください。

怪異

研究所

の

月見里さん

〜執着系怪異の甘々触手攻めで堕とされる〜

前編

成人
指定

Presented by
おむすびころりん